

◆ コスモエネルギーホールディングス（5021）

2020 年度 通期決算 アナリスト・機関投資家向け決算説明会 質疑応答

---

－ 本資料には、将来見通しに関する記述が含まれています。末尾に注意事項を記載しています。 －

1. 日時 : 2021 年 5 月 14 日（金） 10 時 00 分～11 時 00 分
2. 出席者 : 85 名
3. 主な質疑内容 :

Q1:財務体質の改善と増配に向けた考え方を教えてほしい。

A1:ネット D/E レシオは目標の 1 倍前半が達成見込みであるが、自己資本目標 4,000 億円が積み上がっていない。前回は、ネット D/E レシオが 2 倍を下回った一昨年に増配を行った。昨年は原油価格が急落し赤字となったが配当を維持し、今年に繋がっている。次の増配は我々の目標が達成できた時、または達成が確実になった時に検討したい。

Q2:中計目標の連結経常利益 1,200 億円に対して、足元の業績予想は 800 億円となっている。原油価格の前提が異なっているが、どのような要因が教えてほしい。

A2:中計目標から大きく差が出ているのは石油開発事業となる。原油価格の前提とヘイル油田の生産抑制が大きな要因となっている。ただし、ヘイル油田の生産数量は次期中計では回復する見込みである。その他、中計との差異としては、石油事業の国内マージンが想定よりも良化している一方、保全費などの経費が増加している。また、足元は石油化学市況が低迷している。原油価格とヘイル油田生産数量の回復、石油化学市況の回復によって、連結経常利益 1,200 億円は達成できると考えている。

Q3:再生可能エネルギー事業において 2030 年度目標 1.5GW と上方修正しているが、収益の目標を教えてほしい。

A3:設備容量は政府による風力発電導入目標の上方修正に伴い、見直しを行った。収益については 2030 年に目標 200 億としているが、入札により若干マイナスになってきていると考えている。しかし、2035 年～2040 年においてリーディングカンパニーをめざしており、具体的にはシェア 10 数%を想定している。2040 年で経常利益は 400～500 億のレベルになると考えている。

Q4:増配について、自己資本 4,000 億円になればどのような還元を検討するのか教えてほしい。

A4:石油事業はボラティリティが高く、原油価格によって大きく収益がぶれる。そのため、自己資本 4,000 億円は中計目標として重要視している。達成が確実にとなった際は、恐らく増配の形で株主還元を行うことになると考えている。

Q5:2021 年度の計画について国内マージンの考え方、需要の見通しについて教えてください。

Q5:四品マージンは前年比▲166 億円としているが、大半はタイムラグであり約▲1.0 円/L としている。マージンはかなり保守的に設定しており、ベースのマージンは改善していると認識している。需要について、ガソリンはコロナ前と比較すると 97%の計画になっている。ジェット燃料はコロナ前と比較すると 80%の計画となり、当社はカーゴ比率が高いこともあり比較的高い想定になっている。

Q6:再生可能エネルギー事業の利益は 2019 年度 50 億円規模から短期的には洋上風力への先行コストにより縮小傾向となるが、いつ頃改善するのか見通しを教えてください。

A6:コスモエコパワーは現在、洋上風力に向けて大きく増員している。昔は 100 名近くの社員数が現在は 200 名規模まで増えている。さらに今後、300 名もしくは 400 名へと拡大していく予定である。一方で、陸上風力は現在の約 30 万 kW から 50 万 kW まで FIT を取得している。よって、現在は利益が縮小傾向であるが 2020 年代後半には増益トレンドへ転換すると考えている。

Q7:どのような人材がコスモエコパワーへ入社しているのか、またコスモエコパワーにどのような魅力を感じて入社しているのか教えてください。

A7:新卒が少しいるが、ほとんどは中途入社となる。また、Oil から New へのシフトという意味で、石油部門から多くの人数がコスモエコパワーへ出向という形でシフトしている。中途入社の方々の多くは再生可能エネルギーに関わりたいという強い動機があるように見受けられる。

Q8:5 年後、10 年後を見据えて、石油事業、石油化学事業のアセットの持ち方について考え方を教えてください。

A8:当社の特徴は製油所の稼働率が高いことと考えている。つまり、固定資産を効率的に活用し、それが業績に表れていると認識している。経費を落としながらも稼働率を上げていくのが今後の方向感と考えている。但し、需要は確実に減少することから、環境を見極めてアセットの持ち方を考えたい。

Q9:2020 年度、2021 年度におけるコロナ影響を教えてください。

A9:2020 年度はジェット燃料価格ならびに数量減、四品数量減販、輸購入改善、自家燃コスト改善を踏まえ、▲120 億円程度と試算している。ジェット燃料のみでは▲160 億円程度と試算している。2021 年度はジェット燃料は 60 億円程度は回復するが、コロナ発生前と比較すると▲100 億円程度が残ると想定している。

Q10:配当方針について、配当性向など検討しているか教えてください。

A10:現時点ではそこまで詰めた検討は行っていない。まずは財務体質のゴールを優先して考えている。

Q11:風力発電事業以外の新規事業の状況を教えてください。

A11:直営SSの電力グリーン化をリリースした。また、販売部門においてEVのリースなど取り組みを行っている。風力ほどはしっかりした事業の柱にはなっていないが、種まきを行っている。また、他のエネルギーに関して水素、アンモニア、合成燃料、バイオフェューエルなども視野に入っているが、少し後でもキャッチアップできると考えている。風力については最初の出遅れが致命的になると考えており、現在は全精力を傾けている。いずれ他の事業も手掛けていく展開になると考えている。

Q12:11 ページ記載の「次期中計における財務、非財務の融合」「サステナブルな成長をめざす」について教えてください。

A12:環境についてこれまでも取り組んできたが、今後は環境、カーボン削減に対して、よりお金を掛けなくてはならないと考えている。その前提で財務計画を組んでいく。今年1年を掛けてTCFDのシナリオ分析を行い、カーボンネットゼロの目標設定を行う。それを予見にして、中計や単年度予算に繋げていく展開を考えている。

以上

本書の記述及び記載された情報は、将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は、現時点で入手可能な情報から判断した見通しによるものです。

このため、実際の業績は、様々な外部要因により、本書に記述および記載された情報とは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。